

		音楽研究会		部会記録	
日時	平成30年1月10日				
部会名	歌唱部会			主任	押江 恵 (丸山台小)
参加数	20名	司会	原山史子 (三ツ境小)	記録	佐々 可那子 (峯小)
研究内容	研究部テーマ：子どもの意識の流れを生かし、音楽能力の高まりを目指した授業の在り方 歌唱部会テーマ：子どもが歌う喜びを感じながら、主体的に表現の高まりをめざしていく歌唱活動 研究仮説：魅力的な教材との出会いを大切に、互いに表現のよさを聴き合い、学び合うことで、どの子ども歌う喜びを感じながら、表現力を高めることができる。				
	1. 基礎研究 提案者 下田昌子 (荏田西小) 「どんなときも」 作詞作曲 弓削田健介 ・歌詞が2分の1成人式に歌詞がぴったりでメロディーもすてきなので評判がよく、2年連続で歌った。 ・今年の子どもたちは昨年よく聴いていたのですぐに覚えた。聴いていることはとても大切。				
	2. 研究授業の分析と考察 提案者 谷 瞳 (東汲沢小) 第6学年 学習の主題「曲想を生かした表現を工夫して歌おう」 中心教材「あすという日が」 作詞/山本 瓊子 作曲/八木澤 教司 〈成果〉				
	・魅力的な教材との出会いを大切にするため、綿密な教材研究と <u>拡大楽譜への書き込み</u> を行ったことが、子どもに表現への思いや意図をもたせることにつながった。				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 拡大楽譜の書き込みは、色分けをして子どもたちがわかりやすいようにしていた。 赤→楽譜から読み取ったこと。緑→歌詞から感じたこと。…子どもたちが書き込んだ。 青→教師が分析して理解したこと。 ピンク→今回取り上げたい共通事項の「変化」について。 </div>				
	・互いの表現のよさを聴き合い学び合えるよう、聴き合う活動が多く組まれていたこと、学び合い方（特に歌って伝えたこと、考えた表現を客観的に聴けたこと、教師が切り返したこと）が深い学びにつながり、学び合いの形（楽曲を3つに分け、それぞれの部分を担当したこと）が聴き合い学び合う必然性を生んだ。				
	・パワーアップポイントを設定したことで、やるべきことが絞られ、めざす表現に向かって集中して取り組むことができた。どの子ども歌う喜びを感じながら表現を高めることにつながったと考えられる。				
	〈課題〉 ・グループ活動での音の支えは子どもの実態に合わせ、効果的なものを探っていく必要がある。グループ活動への手立て、子どもたちが前向きに取り組める言葉かけもさらに工夫していきたい。				
	3. 研究の成果と今後の課題 提案者 押江 恵 (丸山台小) 〈研究の成果〉 ・模擬授業を伴った実践提案を多く行ったことは、子どもの実態に合わせた効果的な手立てを部員の間で共有化することができ、基礎研究は音楽会等の選曲の手助けになり、とても有意義だった。 ・研究授業に向け、授業者の構想に沿った実践提案を担当の部員で協力して行ったり、模擬授業で本時について部員同士活発に討議したりしたことで、充実した研究授業になった。				
	〈課題と今後の方向性〉 ・今後も模擬授業を伴った実践的な提案を通して、研究を進めていきたい。 ・主体的な活動をするためには、子どもにしっかりと能力がついていないといけなため、学びの蓄積がとても大切である。音楽の見方、考え方、感じ方の素地をつくる授業を行っていく必要がある。 (部員より) ・模擬授業を伴った実践提案は、明日から使える指導法を共有することができてよかった。 ・高学年だけでなく、低・中学年の歌唱指導についても研究したい。				